

時間割コード	KB1201	ナンバリング	KB-SMI-131	科目分野	演習
開講曜日・時限	木2	単位数	2	日英区分	日本語
対象学生	P(国語)	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2020年度前期 共通教育(基盤・教養・教育学部以外の教職)				
科目名	大学入門ゼミ				
担当教員(ローマ字表記)	齋木 久美				
シラバス用備考	【前期】				

## 授業題目/Title

国語科教育入門

## 授業の概要/Course Overview

この授業では大学での学修の意識や態度について理解を図る。自由な環境の中で自律的・意欲的な学生生活を行うための知識・技能を習得し、専門分野の学修における思考力・判断力・表現力の重要性を理解し、主体的な学修の習慣を身につけることをめざす。さらに、調査活動やグループディスカッション等をふまえ、今後のキャリア教育との関連性を理解する。

## キーワード/Keyword(s)

言語活動、自律的・意欲的な学生生活、主体的な学修、知識・技能、思考力、判断力、表現力、キャリア、グローバル教育、グループディスカッション、調査活動

## 到達目標/Learning Objectives

- ・自らの専門分野(学部・学科等)に関する幅広い知識と俯瞰的な理解の基盤を身につける。
- ・協働的な課題解決のためのコミュニケーション力、思考力・判断力・表現力の基盤を身につける。

ディプロマポリシー：①世界の俯瞰的理解、③課題解決能力・コミュニケーション力、④社会人としての姿勢

## 授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

第1回：シラバスを用いたガイダンス 大学での学修・生活環境における自由と責任(アクティブ・ラーニング手法：プレゼンテーション、デモンストレーション)「効果的な自己紹介について：口頭による自己紹介」

第2回：高校から大学への「学びの転換」

- ・「4年間の履修計画について：社会において仕事と人生のキャリア教育、グローバル教育への展開を見据えて学ぶ」
- ・「学外での学修(留学、インターンシップ、ボランティア等)をどう活用するか」

第3回：「聞く」、「話す」に関する技法と作法 ①ディスカッション

第4回：「聞く」、「話す」に関する技法と作法 ②パフォーマンス力について

第5回：図書館の活用

- ・図書館ガイダンスと説明(45分)
- ・図書館を利用した学習とラーニング・コモンズ

第6回：「読む」、「書く」に関する技法と作法① テキストの読み方

第7回：「読む」、「書く」に関する技法と作法② ノートの書き方

第8回：「読む」、「書く」に関する技法と作法③ レポート、論文作成について

第9回：「読む」、「書く」に関する技法と作法④ 「学習の手引き」をもとに 剽窃・盗用・捏造・改ざんなどについて

第10回：「聞く」、「話す」に関する技法と作法③ 話し手を生かす聞き手について

第11回：「読む」、「書く」に関する技法と作法⑤ テーマを決めて原稿を書いてみよう

第12回：「読む」、「書く」に関する技法と作法⑥ 原稿を推敲しよう

第13回：「読む」、「書く」に関する技法と作法⑦ 原稿をもとに発表しよう

第14回：言語活動と国語教育

国語教育を中心とする学校教育において、言語活動の意義と種類を概観する。

第15回：総括

言語活動について、達成目標に照らして意義をとらえ直す。

【授業外学修】

(第1回から第5回)

教科書・参考書を読み大学生として必要なスタディスキルとはどのようなものか予習する。授業中に行ったグループ・ディスカッションの振り返り、理解深める。学生同士で情報を共有しながらディカッションすることが復習となる。復習内容は必ず文書としてまとめておくこと。

(第6回から第15回)

予習：教科書を読み、言語活動について知るとともに、「話す・聞く・書く・読む」について、どのような活動が有効かを考える。

復習：授業で行った言語活動に対して、足りなかった部分を補うとともに、自己の言語を内省し、活動の意味について考察する。

【アクティブ・ラーニング】

(1) 第1,4,9,13回については、それまでの学修内容を踏まえた課題に対し、グループ・ディスカッション、発表を行う。

(2) 毎回の授業終了時は、ミニツツペーパーによる理解度の確認を行う。

## 履修上の注意/Notes

- ・予習復習は必ず行うこと。・遅刻は出席とはみなさない。・オフィス・アワー：木曜日5講時(前期)。(教育学部D棟405)
- ・グループディスカッション、グループワークなどコミュニケーションを主体とするアクティブ・ラーニングに積極的に取り組むこと。

## 情報端末の活用

- ・課題レポートについては、教務情報ポータルシステムを適宜活用する。

## 成績評価基準/Evaluation criteria

- A+：専門分野の学修における基本的な考え方を十分に理解し、今後のキャリア教育との関連性を説明できている。
- A：専門分野の学修における基本的な考え方を理解し、今後のキャリア教育との関連性を説明できている。
- B：専門分野の学修における基本的な考え方を概ね理解し、今後のキャリア教育との関連性を説明できている。
- C：専門分野の学修における基本的な考え方を最低限理解し、今後のキャリア教育との関連性を説明できている。
- D：専門分野の学修における基本的な考え方を理解できておらず、今後のキャリア教育との関連性を説明できていない。

## 成績の評価方法/Grading

期末試験は実施しない。評価は、毎時間の授業終了時に書くペーパー(70%)、プレゼンテーションを含めたレポート作成(30%)。なおレポートを提出しない場合は単位放棄とみなす。

## 教科書/Textbook(s)

備考	教科書：「茨城大学での学修の手引き - 「大学入門ゼミ」から始めよう -」
----	---------------------------------------

## 参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	知へのステップ：大学生からのスタディ・スキルズ
著者名	学習技術研究会 編著
出版社	くろしお出版

出版年	2019
ISBN	978-4874247891
教材費	1800

参考書2

書名	スタディスキルズ・トレーニング：大学で学ぶための25のスキル
著者名	吉原恵子ほか著
出版社	実教出版
出版年	2017
ISBN	978-4407340617
教材費	

参考書3

書名	思考を鍛える大学の学び入門 第2版：論理的な考え方・書き方からキャリアデザインまで
著者名	井下 千以子 著・文・その他
出版社	慶應義塾大学出版会
出版年	
ISBN	978-4766426519
教材費	1200

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	
専門分野の学力	
課題解決能力	
コミュニケーション力	
実践的英語力	
社会人としての姿勢	○
地域活性化志向	○

アクティブ・ラーニング型科目

PBL科目

地域志向科目

使用言語

日本語

**実務経験のある教員による授業科目**

--

**実践的教育から構成される授業科目**

--

**社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）**

授業科目提供		受講条件等
--------	--	-------

時間割コード	KB1202	ナンバリング	KB-SMI-131	科目分野	演習
開講曜日・時限	火3	単位数	2	日英区分	日本語
対象学生	P(社会)	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2020年度前期 共通教育(基盤・教養・教育学部以外の教職)				
科目名	大学入門ゼミ				
担当教員(ローマ字表記)	千葉 真由美				
シラバス用備考	【前期】				

## 授業題目/Title

社会科教育入門

## 授業の概要/Course Overview

この授業では茨城大学での学修への導入を図る。すなわち、学生が、自由な環境の中で自律的・意欲的な学生生活を行うための知識・技能を知り、専門分野の学修における思考力・判断力・表現力の重要性を理解し、主体的な学修の習慣を身につけることをめざす。さらに、今後のキャリア・グローバル教育との関連性を意識づける。そのために、学生自らが調べる活動および学生間のグループディスカッション等を取り入れて授業を行う。

## キーワード/Keyword(s)

主体的な学修、思考力、判断力、表現力、調査活動、グループディスカッション、社会科教育、地域への理解、世界への理解

## 到達目標/Learning Objectives

- ・自律的な学生生活を行う意欲と主体性を身につけることができる。
- ・社会科教育に関する幅広い知識を身につけ、俯瞰的に理解できる。
- ・協働的な課題解決のためのコミュニケーション力、思考力・判断力・表現力を身につけることができる。

## 授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

- 第1回：シラバスを用いたガイダンス 大学での学修・生活環境における自由と責任  
 第2回：高校から大学への「学びの転換」  
 第3回：「聞く」「話す」に関する技法と作法  
 第4回：「読む」「書く」に関する技法と作法  
 第5回：図書館ガイダンス  
 第6回：社会科を学ぶ(1) 社会科教育  
 第7回：社会科を学ぶ(2) 地理と教育  
 第8回：社会科を学ぶ(3) 歴史と教育  
 第9回：社会科を学ぶ(4) 公民と教育  
 第10回：附属小学校授業見学  
 第11回：附属中学校授業見学  
 第12回：地域を考える(1) 水戸から茨城、日本から世界へ  
 第13回：地域を考える(2) 水戸一日巡検(週末の土曜に実施)  
 第14回：地域を考える(3) グループディスカッションとプレゼンテーション  
 第15回：社会科教育を考える グループディスカッションとプレゼンテーション

### 【授業外学修】

- (1) 授業内容を踏まえ、関連文献などに当たり知識を習得するとともに、各自テーマや課題についての考えをまとめ、討議に備える。

- (2) 学校見学に向けて、マナーや心構えを身につけておく。
- (3) 巡見の事前調査を行う。
- (4) 実地観察の結果を整理し、プレゼンテーションに向けた準備を協働して行う。

#### 【アクティブラーニング】

- ・ガイダンスや見学以外の授業においては、全ての回でディスカッションを実施する。
- ・プレゼンテーションに向けた文献調査等を実施する。
- ・学校での授業見学や巡見を行う。

## 履修上の注意/Notes

遅刻は授業開始後10分までとし、それ以降は欠席扱いとする。また遅刻は3回で1回の欠席とする。  
一日巡検を実施するため、保険に加入しておくこと。巡検や個別調査にかかる交通費などは自己負担とする。  
グループディスカッション、グループワークなどコミュニケーションを主体とするアクティブ・ラーニングに積極的に取り組むこと。

## 情報端末の活用

- ・授業内でPCを使用する場合は、事前に指示をする予定。

## 成績評価基準/Evaluation criteria

- A + : 社会科教育の基本的な知識と考え方を十分に修得し、十分に説明できている。
- A : 社会科教育の基本的な知識と考え方を修得し、説明できている。
- B : 社会科教育の基本的な知識と考え方を概ね修得し、概ね説明できている。
- C : 社会科教育の基本的な知識と考え方について最低限の修得をしている。
- D : 社会科教育の基本的な知識と考え方が修得できていない。

## 成績の評価方法/Grading

授業での活動状況 : 50点 / グループ別PBL調査報告レポート : 50点

## 教科書/Textbook(s)

教科書1

書名	茨城大学での学修の手引き - 「大学入門ゼミ」から始めよう -
著者名	
出版社	
出版年	
ISBN	
教材費	

## 参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	スタディスキルズ・トレーニング - 大学で学ぶための25のスキル -
著者名	吉原恵子、他著
出版社	実教出版

出版年	
ISBN	9784407322439
教材費	1200

参考書2

書名	大学 学びのことはじめ -初年次セミナーワークブック-
著者名	佐藤智明、他著
出版社	ナカニシヤ出版
出版年	
ISBN	9784779508387
教材費	1900

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	<input type="radio"/>
専門分野の学力	<input type="radio"/>
課題解決能力	<input type="radio"/>
コミュニケーション力	<input type="radio"/>
実践的英語力	
社会人としての姿勢	<input type="radio"/>
地域活性化志向	<input type="radio"/>

アクティブ・ラーニング型科目

PBL科目

地域志向科目

使用言語

実務経験のある教員による授業科目

実践的教育から構成される授業科目

## 社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--



時間割コード	KB1203	ナンバリング	KB-SMI-131	科目分野	演習
開講曜日・時限	水1	単位数	2	日英区分	日本語
対象学生	P(数学)	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2020年度前期 共通教育(基盤・教養・教育学部以外の教職)				
科目名	大学入門ゼミ				
担当教員(ローマ字表記)	栗原 博之				
シラバス用備考	【前期】				

## 授業題目/Title

数学入門

## 授業の概要/Course Overview

この授業では茨城大学での学修への導入を図る。すなわち、学生が、自由な環境の中で自律的・意欲的な学生生活を行うための知識・技能を知り、専門分野の学修における思考力・判断力・表現力の重要性を理解し、主体的な学修の習慣を身につけることをめざす。さらに、今後のキャリア・グローバル教育との関連性を意識づける。そのために、学生自らが調べる活動および学生間のグループディスカッション等を取り入れて授業を行う。

## キーワード/Keyword(s)

自律的・意欲的な学生生活、主体的な学修、知識・技能、思考力、判断力、表現力、キャリア、グローバル化、調査活動、グループディスカッション

## 到達目標/Learning Objectives

- ・自律的な学生生活を行う意欲と主体性を身につける。
- ・自らの専門分野(学部・学科等)に関する幅広い知識と俯瞰的な理解の基盤を身につける。
- ・協働的な課題解決のためのコミュニケーション力、思考力・判断力・表現力の基盤を身につける。

## 授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

第1回：シラバスを用いたガイダンスと導入(自己紹介を含む)、大学という学修・生活環境における自由と責任

(アクティブ・ラーニング手法) 「効果的な自己紹介について：口頭による自己紹介」

第2回：高校から大学への「学びの転換」

(アクティブ・ラーニング手法) 基本的にディスカッションとする。「4年間の履修計画について：グローバル化する社会において仕事と人生のキャリアを見据えて学ぶ」

第3回：「聞く」、「話す」に関する技法と作法

(アクティブ・ラーニング手法) 基本的にディスカッションとする。「効果的なプレゼンテーションについて」

第4回：「読む」、「書く」に関する技法と作法

(アクティブ・ラーニング手法) 基本的にディスカッションとする。「卒業論文のテーマを考える」

第5回：図書館の活用

- ・図書館ガイダンスの説明(45分)

- ・第6回から第15回の準備

(アクティブ・ラーニング手法) 口頭発表

第6回～15回：大学数学入門

出席者の輪読（ゼミ形式）によって講義を進める。したがって必ずしも授業計画通りに進むとは限らない。オムニバス形式ではなく連続形式の講義なので、予習復習は不可欠である。発表者に当たったものは十分な準備を行って講義に望まなければならない。

（アクティブ・ラーニング手法）口頭発表

【授業外学修】

教科書・参考書を読み大学生として必要なスタディスキルとはどのようなものか予習する。授業中に行ったアクティブ・ラーニングの内容を授業後にラーニング・コモンズなどを利用してさらに深める。学生同士で情報を共有しながらディカッションすることが復習となる。復習内容は必ず文書としてまとめておくこと。

## 履修上の注意/Notes

グループディスカッション、グループワークなどコミュニケーションを主体とするアクティブ・ラーニングに積極的に取り組むこと。

## 情報端末の活用

## 成績評価基準/Evaluation criteria

- A+：大学数学の論理の考え方を十分に理解している。
- A：大学数学の論理の考え方を理解している。
- B：大学数学の論理の考え方を概ね理解している。
- C：大学数学の論理の考え方について最低限の理解している。
- D：大学数学の論理の考え方が理解できていない。

## 成績の評価方法/Grading

1 6 回目の期末試験は行わない。成績の評価は講義中の口頭発表の様子（7割）、レポート（3割）により行う。

## 教科書/Textbook(s)

教科書1

書名	解析入門
著者名	田島一郎
出版社	岩波書店
出版年	1981
ISBN	9784000211086.0
教材費	2750

## 参考書/Reference Book(s)

## 関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	
----------	--

専門分野の学力	◎
課題解決能力	◎
コミュニケーション力	◎
実践的英語力	
社会人としての姿勢	◎
地域活性化志向	

### アクティブ・ラーニング型科目

### PBL科目

### 地域志向科目

### 使用言語

### 実務経験のある教員による授業科目

### 実践的教育から構成される授業科目

### 社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供	受講条件等

時間割コード	KB1204	ナンバリング	KB-SMI-131	科目分野	演習
開講曜日・時限	水1	単位数	2	日英区分	日本語
対象学生	P(理科)	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2020年度前期 共通教育(基盤・教養・教育学部以外の教職)				
科目名	大学入門ゼミ				
担当教員(ローマ字表記)	宮本 直樹, 阿部 信一郎				
シラバス用備考	【前期】				

## 授業題目/Title

学理入門

## 授業の概要/Course Overview

この授業では茨城大学での学修への導入を図る。すなわち、学生が、自由な環境の中で自律的・意欲的な学生生活を行うための知識・技能を知り、専門分野の学修における思考力・判断力・表現力の重要性を理解し、主体的な学修の習慣を身につけることをめざす。さらに、今後のキャリア・グローバル教育との関連性を意識づける。そのために、学生自らが調べる活動および学生間のグループディスカッション等を取り入れて授業を行う。

## キーワード/Keyword(s)

自律的・意欲的な学生生活、主体的な学修、知識・技能、思考力、判断力、表現力、飼育・栽培活動、グループディスカッション

## 到達目標/Learning Objectives

- ・自律的な学生生活を行う意欲と主体性を身に付ける。
- ・自らの専門分野(理科教育)に関する幅広い知識と俯瞰的な理解の基盤を身に付ける。
- ・協働的な課題解決のためのコミュニケーション力、思考力・判断力・表現力の基盤を身に付ける。

## 授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

第1回：シラバスを用いたガイダンスと導入(自己紹介を含む)、大学という学修・生活環境における自由と責任(宮本)  
(プレゼンテーション)「効果的な自己紹介について：口頭による自己紹介」

第2回：高校から大学への「学びの転換」(宮本)  
(ピア・インストラクション、ディスカッション)「4年間の履修計画：卒業後の目標を見据えた履修計画」についてディスカッションする。

第3回：「聞く」、「話す」に関する技法と作法(宮本)  
(ライティング・ディスカッション)「話す側、聞く側双方からみた効果的なプレゼンテーション」について、ディスカッションする。

第4回：「読む」、「書く」に関する技法と作法(宮本)  
(ディスカッション、ミニツッパーパー)「学修の手引き」を使用して、剽窃・盗用・捏造・改ざんなど、レポート作成時の不正行為について解説する。そしてなぜそのような行為が起こるのかについてグループ毎にディスカッションする。授業の最後に振り返りシートを作成し、本時の学習内容を確認する。

第5回：図書館の活用(宮本)

- ・図書館ガイダンスの説明(45分)
- ・図書館を利用した学習とラーニング・commons

(ディスカッション)

「図書館情報と資料収集のメリット、情報倫理」

第6回：飼育の仕方（阿部）

（ディスカッション）飼育の基本事項について学ぶ。

第7回：飼育の過程（阿部）

（ディスカッション）飼育の過程について報告する。

第8回：自然体験学習1（阿部）

（ディスカッション）農場でのグループ活動によりサツマイモの苗を挿苗し、栽培の基礎とともに、自然の見方や考え方について学び、サツマイモを栽培する際のポイントについてディスカッションする。

第9回：自然体験学習2（阿部）

（ディスカッション）農場でのグループ活動によりサツマイモの日頃の手入れの仕方について学び、美味しいサツマイモをたくさん育てるためのポイントについてディスカッションする。

第10回：特定テーマに関する探索活動0：紙飛行機を飛ばそう！（阿部・宮本）

（クイズ形式授業）グループに分かれて紙飛行機を作成し、その際、どのような形状のものが良いか？飛ばす際の最適な方法などについてディスカッションし、実際にグループ毎に飛行させ、競う。

第11回：特定テーマに関する探索活動1（阿部・宮本）

（ディスカッション、ミニツツペーパー）グループに分かれてテーマを決定し、活動計画を立てる。何故そのテーマを選んだか？何を行うのかについてグループ毎に発表する。授業の最後に振り返りシートを作成し、本時の学習内容を確認する。

第12回、13回、14回：特定テーマに関する探索活動2（阿部・宮本）

（ディスカッション、ミニツツペーパー）前回からの探求活動の経過についてグループ毎に発表し、全体でディスカッションを行う。授業の最後に振り返りシートを作成し、本時の学習内容を確認する。

第15回：探索活動の発表会（阿部・宮本）

（プレゼンテーション、ディスカッション、ミニツツペーパー）：第11回～14回で行った探索活動についての成果をグループ毎に発表し、全体でディスカッションを行う。授業の最後に振り返りシートを作成し、本時の学習内容を確認する。

【授業外学修】

・授業の性質上、授業時間外の主体的な学習（調査、プレゼン資料作成、レポート執筆、飼育・栽培など）が必要となるので積極的に予習・復習に取り組むこと。

・『茨城大学での学修の手引き－「大学入門ゼミ」から始めよう－』に目を通して授業を受けるとよい。各回の学習内容は必ず復習し、理解を深めておくこと。

・授業中に行ったディスカッションの内容を授業後にラーニング・コモンズなどを利用してさらに深めるとよい。

・学生同士で情報を共有しながらディスカッションすることで効果的な復習となる。復習内容は文書としてまとめるように努めること。

【アクティブ・ラーニング】

・第2～9、11～15回については、学修内容を踏まえた課題に対し、グループ・ディスカッション、発表を行う。

## 履修上の注意/Notes

遅刻は3回で欠席1回とする。遅刻の扱いをするのは授業開始後20分までとし、それ以降は欠席扱いとする。コミュニケーションを主体とするアクティブ・ラーニングに積極的に取り組むこと。

オフィスアワー：阿部：木3限、宮本：火3限。

## 情報端末の活用

・授業内でPCを使用することがある。

## 成績評価基準/Evaluation criteria

- A+：理科の基本的な知識と考え方を十分に理解し、それらについて説明できている。  
A：理科の基本的な知識と考え方を理解し、さらにそれらについて説明できている。  
B：理科の基本的な知識と考え方を概ね理解し、さらにそれらについて説明できている。  
C：理科の基本的な知識と考え方について最低限の理解をしており、さらにそれらについて説明できている。  
D：理科の基本的な知識と考え方が理解できておらず、さらにそれらについての説明ができていない。

## 成績の評価方法/Grading

- ・レポート（40%）、プレゼンテーション（40%）、実験・飼育・栽培（30%）などの評価点を平均して最終的な評価点とする。  
・16回目の期末試験は実施しない。

## 教科書/Textbook(s)

備考	「茨城大学での学修の手引き - 「大学入門ゼミ」から始めよう -」
----	-----------------------------------

## 参考書/Reference Book(s)

### 参考書1

書名	スタディスキルズ・トレーニング：大学で学ぶための25のスキル
著者名	吉原恵子, 間瀬泰尚, 富江英俊, 小針誠 著
出版社	実教出版
出版年	2011
ISBN	4407322438
教材費	1200

### 参考書2

書名	大学学びのことはじめ：初年次セミナーワークブック
著者名	佐藤智明, 矢島彰, 山本明志 編
出版社	ナカニシヤ出版
出版年	2014
ISBN	477950838X
教材費	1900

### 参考書3

書名	物理数学の基礎 (新・数理科学ライブラリー物理学)
著者名	香取 真理, 中野 徹
出版社	サイエンス社
出版年	2001
ISBN	4781909817
教材費	2000

## 関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	○
専門分野の学力	◎
課題解決能力	◎
コミュニケーション力	◎
実践的英語力	△
社会人としての姿勢	○
地域活性化志向	△

## アクティブ・ラーニング型科目

## PBL科目

## 地域志向科目

## 使用言語

## 実務経験のある教員による授業科目

## 実践的教育から構成される授業科目

## 社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KB1205	ナンバリング	KB-SMI-131	科目分野	演習
開講曜日・時限	火3	単位数	2	日英区分	日本語
対象学生	P(英語)	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2020年度前期 共通教育(基盤・教養・教育学部以外の教職)				
科目名	大学入門ゼミ				
担当教員(ローマ字表記)	安原 正貴				
シラバス用備考	【前期】				

## 授業題目/Title

ディスカッションとスピーチ

## 授業の概要/Course Overview

この授業では茨城大学での学修への導入を図る。すなわち、学生が、自由な環境の中で自立的・意欲的な学生生活を行うための知識・知能を知り、専門分野の学修における思考力・判断力・表現力の重要性を理解し、主体的な学修の習慣を身につめることをめざす。さらに、今後のキャリア・グローバル教育との関連性を意識づける。そのために、学生自らが調べる活動および学生間のグループディスカッション等を取り入れて授業を行う。

## キーワード/Keyword(s)

自立的・意欲的な学生生活、主体的な学修、知識・技能、思考力、判断力、表現力、キャリア、グローバル化、調査活動、グループディスカッション

## 到達目標/Learning Objectives

自律的な学生生活を行う意欲と主体性を身につける  
 自らの専門的分野(学部・学科など)に関する幅広い知識と俯瞰的な理解の基盤を身につける  
 協働的な課題解決のためのコミュニケーション力、思考力・判断力・表現力の基盤を身につける

## 授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

第1回:【授業内容】シラバスを用いたガイダンスと導入(自己紹介を含む)、大学という学修・生活環境における自由と責任。

ディスカッションとスピーチ:他己紹介

(アクティブラーニング手法:グループディスカッションとプレゼンテーション、質疑応答)

【授業外学修】復習として、配付資料・ノートなどを確認しておくこと。

第2回:【授業内容】高校から大学へ

ディスカッションとスピーチ:iOPの計画について

(アクティブラーニング手法:グループディスカッションとプレゼンテーション、質疑応答)

【授業外学修】復習として、配付資料・ノートなどを確認しておくこと。

第3回:【授業内容】「聞く」「話す」に関する技法と作法

インタビューとスピーチ:哲学対話

(アクティブラーニング手法:インタビュー活動、他己紹介(プレゼンテーション))

【授業外学修】復習として、配付資料・ノートなどを確認しておくこと。

第4回:【授業内容】「読む」「書く」に関する技法

「学習の手引き」を使用して、剽窃・盗用・捏造・改ざんなど、レポート作成時の不正行為について解説する。

ディスカッションとスピーチ:教員に必要な資質とは何か?

(アクティブラーニング手法:グループディスカッションとプレゼンテーション、質疑応答)

【授業外学修】復習として、配付資料・ノートなどを確認しておくこと。



第5回：【授業内容】「図書館」の活用

図書館ガイダンス

プレゼンの準備

(アクティブラーニング手法：プレゼンのテーマ設定と調査活動)

【授業外学修】期末のプレゼンに向け、資料収集や準備を行うこと。

第6回：【授業内容】英語教育について

(アクティブラーニング手法：グループディスカッションとプレゼンテーション、質疑応答)

【授業外学修】期末のプレゼンに向け、資料収集や準備を行うこと。

第7回：【授業内容】英語コミュニケーションについて

(アクティブラーニング手法：グループディスカッションとプレゼンテーション、質疑応答)

【授業外学修】期末のプレゼンに向け、資料収集や準備を行うこと。

第8回：【授業内容】アメリカ文学について

(アクティブラーニング手法：グループディスカッションとプレゼンテーション、質疑応答)

【授業外学修】期末のプレゼンに向け、資料収集や準備を行うこと。

第9回：【授業内容】イギリス文学について

(アクティブラーニング手法：グループディスカッションとプレゼンテーション、質疑応答)

【授業外学修】期末のプレゼンに向け、資料収集や準備を行うこと。

第10回：【授業内容】英語学について

レポートのピアレビュー

プレゼンのスライド作り

(アクティブラーニング手法：グループディスカッションとプレゼンテーション、質疑応答)

【授業外学修】期末のプレゼンに向け、資料収集や準備を行うこと。

第11回：【授業内容】プレゼンの技法と演習

(アクティブラーニング手法：プレゼンテーションの発表練習)

【授業外学修】期末のプレゼンに向け、発表準備や練習を行うこと。

第12回：【授業内容】プレゼンを行う(1)

(アクティブラーニング手法：プレゼンテーション、質疑応答)

【授業外学修】期末のプレゼンに向け、発表準備や練習を行うこと。

第13回：【授業内容】プレゼンを行う(2)

(アクティブラーニング手法：プレゼンテーション、質疑応答)

【授業外学修】期末のプレゼンに向け、発表準備や練習を行うこと。

第14回：【授業内容】プレゼンを行う(3)

(アクティブラーニング手法：プレゼンテーション、質疑応答)

【授業外学修】期末のプレゼンに向け、発表準備や練習を行うこと。

第15回：【授業内容】プレゼンを行う(4)

(アクティブラーニング手法：プレゼンテーション、質疑応答)

【授業外学修】期末のプレゼンに向け、発表準備や練習を行うこと。

## 履修上の注意/Notes

予習復習は指示をするので必ず行うこと。遅刻は30分以上は欠席とする。

グループディスカッション、グループワークなどコミュニケーションを主体とするアクティブ・ラーニングに積極的に取り組むこと。

オフィスアワー：火曜日昼休み

## 情報端末の活用

## 成績評価基準/Evaluation criteria

A+：スピーチ・ディスカッションの基本的な知識と考え方を十分に修得し、さらにその仕組みについて説明できている。

A：スピーチ・ディスカッションの基本的な知識と考え方を修得し、さらにその仕組みについて説明できている。

- B :スピーチ・ディスカッションの基本的な知識と考え方を概ね修得し、さらにその仕組みについて説明できている。  
 C :スピーチ・ディスカッションの基本的な知識と考え方について最低限の修得をしており、さらにその仕組みについて説明できている。  
 D :スピーチ・ディスカッションの基本的な知識と考え方が修得できておらず、さらにその仕組みについての説明ができていない。

## 成績の評価方法/Grading

16回目の期末試験は実施しない。活動への積極的な参加（60%）、最終のプレゼンとその質疑応答への参加（20%）、レポート（20%）から成績評価を行う。

## 教科書/Textbook(s)

備考	教科書：「茨城大学での学修の手引きー「大学入門ゼミ」から始めよう」 参考書：①「スタディスキルズ・トレーニングー大学で学ぶための25のスキル」吉原恵子他著、実教出版、1200円②「大学学びのことはじめー初年次セミナーワークブック」佐藤智明他著、ナカニシ出版、1900円③「知へのステップアップー大学生からのスタディ・スキルズ」上村和美他著、クロシオ出版、1800円
----	---

## 参考書/Reference Book(s)

### 関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	◎
専門分野の学力	△
課題解決能力	◎
コミュニケーション力	◎
実践的英語力	△
社会人としての姿勢	○
地域活性化志向	○

### アクティブ・ラーニング型科目

○

### PBL科目

### 地域志向科目

### 使用言語

日本語のみ

### 実務経験のある教員による授業科目

--

**実践的教育から構成される授業科目**

--

**社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）**

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KB1206	ナンバリング	KB-SMI-131	科目分野	演習
開講曜日・時限	火3	単位数	2	日英区分	日本語
対象学生	P(音楽)	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2020年度前期 共通教育(基盤・教養・教育学部以外の教職)				
科目名	大学入門ゼミ				
担当教員(ローマ字表記)	谷川 佳幸, 神部 智, 田中 宏明, 藤田 文子, 山口 哲人, 門脇 早穂子				
シラバス用備考	【前期】				

## 授業題目/Title

音楽を学ぶ意味

## 授業の概要/Course Overview

この授業では茨城大学での学修への導入を図る。すなわち、学生が、自由な環境の中で自律的・意欲的な学生生活を行うための知識・技能を知り、専門分野の学修における思考力・判断力・表現力の重要性を理解し、主体的な学修の習慣を身につけることをめざす。さらに、今後のキャリア・グローバル教育との関連性を意識づける。そのために、学生自らが調べる活動および学生間のグループディスカッション等を取り入れて授業を行う。

## キーワード/Keyword(s)

音楽、音楽科教育、音楽学、作曲、ピアノ、声楽、自律的・意欲的な学生生活、主体的な学修、知識・技能、思考力、判断力、表現力、キャリア、グローバル化、調査活動、グループディスカッション

## 到達目標/Learning Objectives

- ・自律的な学生生活を行う意欲と主体性を身につける。
- ・自らの専門分野(学部・学科等)に関する幅広い知識と俯瞰的な理解の基盤を身につける。
- ・協働的な課題解決のためのコミュニケーション力、思考力・判断力・表現力の基盤を身につける。

## 授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

第1回：シラバスを用いたガイダンスと導入(自己紹介を含む)(谷川)、大学という学修・生活環境における自由と責任  
アクティブ・ラーニング手法：効果的な自己紹介について

第2回：高校から大学への「学びの転換」(神部)  
アクティブ・ラーニング手法：グローバル化する社会において仕事と人生のキャリアを見据えて学ぶ。

第3回：「聞く」、「話す」に関する技法と作法(山口)  
アクティブ・ラーニング手法：効果的なディスカッション、効果的なプレゼンテーションについて

第4回：「読む」、「書く」に関する技法と作法：「学習の手引き」を使用して、剽窃・盗用・捏造・改ざんなど、レポート作成時の不正行為について解説する(藤田)。  
(アクティブ・ラーニング手法：「卒業研究のテーマを考える」とした場合の下準備に関する議論

第5回：図書館の活用(谷川)

第6回：音楽教育を学ぶ意味(藤田)  
学校で行われる音楽科教育と社会教育で行われる音楽教育との違いなどについて考え調べる。

第7回：作曲を学ぶ意味(山口)  
音楽における創作とは何かについて考え調べる。

第8回：音楽学を学ぶ意味(神部)  
音楽学を学ぶ意味について検討する。

第9回：器楽(ピアノ)を学ぶ意味①(田中)

音楽教師として必要な実技（特にピアノから）とは何かについて検討し、技術の向上にどのように取り組むかについて再考・演習する。

第10回：器楽（ピアノ）を学ぶ意味②（田中）

音楽教師として必要な実技（特にピアノから）とは何かについて検討し、技術の向上にどのように取り組むかについて再考・演習する。

第11回：声楽を学ぶ意味①（谷川）

音楽教師として必要な実技（特に声楽から）とは何かについて検討し、技術の向上にどのように取り組むかについて再考・演習する。

第12回：声楽を学ぶ意味②（谷川）

音楽教師として必要な実技（特に声楽から）とは何かについて検討し、技術の向上にどのように取り組むかについて再考・演習する。

第13回：音楽教育を学ぶ意味①（門脇）

音楽教師に必要な教師力とはなにかについて考え調べる。

第14回：音楽教育を学ぶ意味②（門脇）

音楽教師に必要な教師力とはなにかについて考え調べる。

第15回：まとめ（谷川） 期末試験

#### 授業外学習

授業までに読んでおくものや聞いておく作品は、先の授業内で知らせると同時に音楽科ボードに掲示するので必ずチェックし、分からない用語などは調べておくこと。

実際に音を出して演習する回（9.10.11.12）があるので体調管理が大切である。

常に音について意識を持ち、普段の生活の中で音楽について分析する姿勢を持っていることが必要である。

## 履修上の注意/Notes

オムニバス授業のため、すべてに出席するように留意すること。遅刻3回で欠席1回とする。授業開始から30分までを遅刻とする。各分野の授業担当者の日程上、授業計画の順と異なる場合もあるが、その際はガイダンス時に知らせる。グループディスカッション、グループワークなどコミュニケーションを主体とするアクティブ・ラーニングに積極的に取り組むこと。オフィスアワーは教員ごとに異なるので、授業科目一覧で確認のこと。

## 情報端末の活用

授業内でPCを使用する。

## 成績評価基準/Evaluation criteria

- |    |                                    |
|----|------------------------------------|
| A+ | 到達目標を十分に達成し、極めて優れた学修成果を上げている。      |
| A  | 80点以上90点未満 到達目標を達成し、優れた学修成果を上げている。 |
| B  | 70点以上80点未満 到達目標と学修成果を概ね達成している。     |
| C  | 60点以上70点未満 合格と認められる最低限の到達目標に届いている。 |
| D  | 60点未満 到達目標に届いておらず、再履修が必要である。       |

## 成績の評価方法/Grading

3分の2以上の出席がないと評価の対象とならない。16回目の期末試験は実施しない。評価は、授業での活動状況（40%）と課題レポート（60%）により行う。

## 教科書/Textbook(s)

教科書1

書名	茨城大学での学修の手引き - 「大学入門ゼミ」から始めよう -
著者名	
出版社	
出版年	

ISBN	
教材費	

## 参考書/Reference Book(s)

### 参考書1

書名	スタディスキルズ・トレーニング -大学で学ぶための25のスキル-
著者名	吉原恵子
出版社	実教出版
出版年	
ISBN	
教材費	1200

### 参考書2

書名	知へのステップ -大学生からのスタディ・スキルズ
著者名	上村和美、他
出版社	くろしお出版
出版年	
ISBN	
教材費	1800

### 参考書3

書名	音楽の文書セミナー
著者名	久保田慶一
出版社	音楽之友社
出版年	
ISBN	
教材費	2200

## 関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	△
専門分野の学力	◎
課題解決能力	○
コミュニケーション力	◎
実践的英語力	△
社会人としての姿勢	○
地域活性化志向	△

## アクティブ・ラーニング型科目

○
---

## PBL科目

--

## 地域志向科目

--

## 使用言語

日本語のみ
-------

## 実務経験のある教員による授業科目

--

## 実践的教育から構成される授業科目

--

## 社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等
--------	--	-------

時間割コード	KB1207	ナンバリング	KB-SMI-131	科目分野	演習
開講曜日・時限	木2	単位数	2	日英区分	日本語
対象学生	P(美術)	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2020年度前期 共通教育(基盤・教養・教育学部以外の教職)				
科目名	大学入門ゼミ				
担当教員(ローマ字表記)	甲斐 教行, 片口 直樹, 小口 あや, 島田 裕之, 島 剛, 齋藤 芳徳				
シラバス用備考	【前期】				

## 授業題目/Title

美術教育実践ゼミ

## 授業の概要/Course Overview

茨城大学での学修への導入を図る。学生が、自由な環境の中で自律的・意欲的な学生生活を行うための知識・技能を知り、専門分野の学修における思考力・判断力・表現力の重要性を理解し、主体的な学修の習慣を身につけることをめざす。美術選修における全授業科目の出発点として、美術特有の考え方や技法の基本的事項を確認しつつ、美術館見学を通じて茨城の美術について実地に学習し、美術教育を実践する基本的な知見を培う。

## キーワード/Keyword(s)

自律的・意欲的な学生生活、主体的な学修、知識・技能、思考力、判断力、表現力、グループディスカッション、美術教育、美術研究、茨城の美術史、茨城の作家

## 到達目標/Learning Objectives

- ・自律的な学生生活を行う意欲と主体性を身につけることができる。
- ・自らの専門分野(学部・学科等)に関する幅広い知識と俯瞰的な理解の基盤を身につけることができる。
- ・美術や美術教育に関する幅広い知識と俯瞰的な理解の基盤を身につけ、教員養成課程の視点で知識と理解の基盤を認識できる。

## 授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

【授業内容】シラバスを用いたガイダンス/自己紹介/大学という学修・生活環境における自由と責任(全教員)  
アクティブラーニング手法:自己紹介においては5名程度のグループを形成し、グループ内での自己紹介フリートークを元に「自己紹介ワークシート」を作成する。フリートークの中には「高等学校と大学の違いを考える」という内容を含める。全体での自己紹介は「自己紹介ワークシート」を元に発表する。

【授業外学習】第一回目の授業内容をふまえ、これまで受けてきた図工・美術の授業について振り返りを行う。

【授業内容】高校から大学への「学びの転換」/グループによるディスカッション実習(島田)  
アクティブラーニング手法:グループによるディスカッション(ブレインストーミング)実習～テーマ:大学での学びとは  
前回の「高等学校と大学の違いを考える」を深化させるため「大学で美術を学ぶこととは」というテーマでグループでブレインストーミングを行う。ブレインストーミングの内容はKJ法によりグループ毎にまとめ、発表する

【授業外学習】予習として大学入学前までの美術学習体験を振り返っておく。授業後は本時の成果を踏まえて、次時活動のため他者の発想や思考に対する理解を深めておく。

【授業内容】「聞く」、「話す」に関する技法と作法(島田)  
グループ学習:美術体験について「話す」/美術体験を「聞く」  
アクティブラーニング手法:前回までの体験を元に「高校までの美術体験・大学での美術体験の在り方」についてグループ毎に発表内容をまとめる。まとめた内容を代表が発表し、その発表内容を聞いて各自が要点をワークシートにまとめる。

【授業外学習】授業の結果を踏まえて、美術を専門的に学習する方法・取組姿勢を自覚して普段の生活に活用する。

【授業内容】図書館の活用(甲斐)



図書館ガイダンス終了後 美術研究と図書・資料について学習する。

アクティブ・ラーニング手法：美術研究のための図書と資料の検索方法について実践を通して修得する。研究における資料の検索法、利用法を実地に学ぶ。

【授業外学習】課題（興味を持つ専門分野）について、学生自身のPC・スマートフォン等を用いてWEB情報を収集しておく。

【授業内容】美術研究と図書・資料について（齋藤）

アクティブ・ラーニング手法：前回に引き続き、美術研究のための図書と資料の検索方法について実践を通して修得する。研究における資料の検索法、利用法を実地に学ぶことに加え、様々なメディアを活用して資料収集し結果をまとめることを学習する。

【授業外学習】課題（興味を持つ専門分野）について、図書・WEB資料等を調査したレポートを所定の期日までに提出する

【授業内容】「読む」、「書く」に関する技法と作法（小口）

美術書の講読とレポートの書き方

美術に関わる文章を講読し、その内容についてのまとめ方を学習する。まとめた文章は発表により教員と学生両者による講評や添削を受ける。「学修の手引き」を使用して、剽窃・盗用・捏造・改ざんなど、レポート作成時の不正行為について解説を受ける。

【授業外学習】授業で学んだことを生かし、美術に関するテーマでレポートを書く。

【授業内容】茨城の美術（絵画と彫刻を中心とした概説）（甲斐）

講義：既習内容の発表を受け、茨城県の近代美術史について絵画と彫刻を中心に関係する作家たちを通して概観、解説する

【授業外学習】授業で学んだ作家や作品について復習し、同じ作家の他の作品や、同時代美術の状況について既刊資料等を用いて学習する。

【授業内容】茨城の美術（岡倉天心と五浦の作家たちについての概説）（甲斐）

講義：「岡倉天心と五浦の作家たち」をテーマとして明治期の日本美術の状況と五浦（日本美術院）と関係する作家たちを概観する。

【授業外学習】授業で学んだ作家や作品について復習するとともに、今後の現地見学に向けて、グループ毎に見学要点をまとめる。

【授業内容】茨城県近代美術館見学（片口）

既習の茨城の美術について、茨城県近代美術館の常設展示により知見を深める。

企画展は見学日程による。

フィールドワーク：前回の授業でまとめた見学要点を元に茨城県近代美術館において学修する。学修の結果は見学レポートとして各自まとめて提出する。

【授業外学習】第8回の授業を終えてグループでまとめた見学要点を基に、現地での見学内容をレポートにまとめる。

【授業内容】10.～11.茨城県天心記念五浦美術館、茨城大学五浦美術文化研究所見学（島）

既習の茨城の美術について、2ヶ所の見学地でのフィールドワークにより知見を深める。

企画展は見学日程による。

フィールドワーク：前回の授業でまとめた見学要点を元に現地（北茨城市五浦）において学修する。学修の結果は見学レポートとして各自まとめて提出する。

【授業外学習】第8回の授業を終えてグループでまとめた見学要点を基に、現地での見学内容をレポートにまとめる。

【授業内容】第10回参照。

【授業外学習】第10回参照。

【授業内容】作品制作と教員について 絵画編（片口）

講義：美術教員にとっての作品制作（表現活動）の位置づけと意義について、絵画担当教員の実例によって学修する。

アクティブ・ラーニング手法：グループ学修。講義内容を元に教員という職業における作品制作の意義について、グループ毎にまとめる。

【授業外学習】授業で学修した内容に関する小レポートを作成する。

【授業内容】作品制作と教員について 彫刻編（島）

講義：美術教員にとっての作品制作（表現活動）の位置づけと意義について、彫刻担当教員の実例によって学修する。

アクティブ・ラーニング手法：グループ学修。講義内容を元に教員という職業における作品制作の意義について、前回の内容と合わせてグループ毎にまとめ、発表する。

【授業外学習】授業で学修した内容に関する実践を、美術館見学によって各自で試行する。

【授業内容】美術研究と教員（小口）

講義：美術教員にとっての研究活動の位置づけと意義について、美術教育担当教員の実例によって学修する。

アクティブ・ラーニング手法：グループ学修。講義内容を元に教員という職業における研究活動の意義について、グループ毎にまとめる。

【授業外学習】自分が目指す美術教員に必要な研究とはどのようなものなのかを自分なりに考え、制作や鑑賞、文献を読む等の活動を行う。

【授業内容】まとめ（全教員）

アクティブラーニング手法：1回目のグループにより、大学入門ゼミを受講する前と後での各自の内面的変化をテーマにディスカッションする。ディスカッションによる発見内容はグループでまとめ発表する。

【授業外学習】大学入門ゼミを受講する前と後での各自の内面的変化をテーマに、個別の発見内容をレポートとしてまとめ後日提出する。

## 履修上の注意/Notes

1. グループワーク、学外での授業見学等を含む授業であり、欠席すると学習内容の修得や提出物に大きく影響するので注意すること。
2. 各教員の開講数が少ないオムニバス授業なので欠席はできるだけ避けること。遅刻は3回で欠席1回とする。特段の理由がないかぎり20分以上の遅刻は認めない。
3. 授業ごとに復習として疑問点や質問をカードに記入したり、授業内容に応じてレポートの提出が課される場合もある。
4. オフィスアワーは各教員によって違うので、確認してから対応すること。

## 情報端末の活用

授業内でPCを使用する場合がありますので、教員の指示に従うこと。

## 成績評価基準/Evaluation criteria

A+ : 90点以上100点	到達目標を十分に達成し、きわめて優れた学修成果を上げている。
A : 80点以上90点未満	到達目標を達成し、優れた学修成果を上げている。
B : 70点以上80点未満	到達目標と学修成果を概ね達成している。
C : 60点以上70点未満	合格と認められる最低限の到達目標に届いている。
D : 60点未満	到達目標に届いておらず、再履修が必要である。

## 成績の評価方法/Grading

16回目の期末試験は実施しない。評価は①授業時のディスカッションへの取り組みを記載した「ワークシート」(20%) ②数回の課題レポートおよび見学レポート(20%) ③数回の授業内での口頭発表(20%) ④期末レポート(40%) により行う。

## 教科書/Textbook(s)

教科書1

書名	茨城大学での学修の手引き—「大学入門ゼミ」から始めよう—
著者名	茨城大学全学教育機構
出版社	茨城大学
出版年	
ISBN	
教材費	

備考	教科書：『茨城大学での学修の手引き—「大学入門ゼミ」から始めよう—』 参考書：茨城県造形教育研究会編『美術資料』秀学社 750円
----	---

## 参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	美術資料
著者名	茨城県造形教育研究会編
出版社	秀学社
出版年	
ISBN	
教材費	750

## 関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	<input type="radio"/>
専門分野の学力	<input checked="" type="radio"/>
課題解決能力	<input checked="" type="radio"/>
コミュニケーション力	<input type="radio"/>
実践的英語力	<input type="radio"/>
社会人としての姿勢	<input type="radio"/>
地域活性化志向	<input checked="" type="radio"/>

## アクティブ・ラーニング型科目

## PBL科目

## 地域志向科目

## 使用言語

## 実務経験のある教員による授業科目

小学校・中学校・高等学校現場における教諭経験がある教員3名が、その経験を活かして大学における美術の学修のあり方や美術教員にとっての制作・研究活動について講義する。

## 実践的教育から構成される授業科目

## 社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KB1208	ナンバリング	KB-SMI-131	科目分野	演習
開講曜日・時限	木2	単位数	2	日英区分	日本語
対象学生	P(保健体育)	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2020年度前期 共通教育(基盤・教養・教育学部以外の教職)				
科目名	大学入門ゼミ				
担当教員(ローマ字表記)	吉野 聡, 富樫 泰一, 勝本 真, 上地 勝, 渡邊 将司, 中嶋 哲也, 大津 展子, 篠田 明音				
シラバス用備考	【前期】				

## 授業題目/Title

健康科学・スポーツ科学入門

## 授業の概要/Course Overview

この授業では茨城大学での学修への導入を図る。すなわち、学生が、自由な環境の中で自律的・意欲的な学生生活を行うための知識・技能を知り、専門分野の学修における思考力・判断力・表現力の重要性を理解し、主体的な学修の習慣を身につけることをめざす。さらに、今後のキャリア・グローバル教育との関連性を意識づける。そのために、学生自らが調べる活動および学生間のグループディスカッション等を取り入れて授業を行う。

## キーワード/Keyword(s)

自律的・意欲的な学生生活、主体的・協働的な学修、キャリア、グローバル化、グループディスカッション

## 到達目標/Learning Objectives

- ・自律的な学生生活を行う意欲と主体性を身に付ける
- ・自らの専門分野に関する幅広い知識と俯瞰的な理解の基盤を身に付ける
- ・協働的な課題解決のためのコミュニケーション力、思考力・判断力・表現力の基盤を身に付ける

## 授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

- 第1回:【授業内容】シラバスを用いたガイダンスと導入(自己紹介を含む)、大学という学修・生活環境における自由と責任  
【授業外学習】効果的な口頭による自己紹介(時間制限がある場合)と文書による自己紹介(文字制限がある場合)について準備すること。
- 第2回:【授業内容】高校から大学への「学びの転換」  
【授業外学習】4年間の履修計画について議論するために、在学中の目標と卒業後の進路についてまとめておく。
- 第3回:【授業内容】「聞く」、「話す」に関する技法と作法  
【授業外学習】効果的なディスカッションやプレゼンテーションのポイントをまとめておく。
- 第4回:【授業内容】図書館の活用  
【授業外学習】大学図書館の活用方法を調べておく。
- 第5回:【授業内容】「読む」、「書く」に関する技法と作法  
【授業外学習】「学習の手引き」の剽窃・盗用・捏造・改ざんなど、レポート作成時の不正行為のページを確認しておく。
- 第6回:【授業内容】キャリア形成について考える  
【授業外学習】尊敬できる人物のキャリアについて調べ学習を行う。
- 第7回:【授業内容】地域スポーツの活性化について考える  
【授業外学習】地域スポーツの現状や課題について調べておく。
- 第8回:【授業内容】運動と安全について考える  
【授業外学習】学校、運動やスポーツ場面に潜む危険について確認しておく。
- 第9回:【授業内容】オリンピックの価値について考える  
【授業外学習】オリンピック開催の利点や問題点について確認しておく。

第10回:【授業内容】世界のスポーツについて考える

【授業外学習】グローバルな視点からスポーツの現状や課題についてまとめておく。

第11回:【授業内容】人々にとってのQOLについて考える

【授業外学習】QOLについて調べておく。

第12回～第15回:【授業内容】学習集団について考える

【授業外学習】協働作業による集団学習を行うので、各グループで役割分担を決め準備する。

【アクティブ・ラーニング】

(1) 第6～11回については、それまでの学修内容を踏まえた課題に対し、議論（シンク・ペア・シェア/ラウンドロビン/ディスカッション）する。

(2) また、毎回の授業終了時は、Office 365のFormsを使って理解度の確認を行う。

## 履修上の注意/Notes

グループディスカッション、グループワークなどコミュニケーションを主体とするアクティブラーニングに積極的に取り組むこと。遅刻は原則として認められない。第12～15回は、学外でのフィールドワークを予定（実施日、経費等未定）。

## 情報端末の活用

- ・講義資料は教務情報ポータルシステムで事前配信するので、毎回の授業時にはP Cを持参すること。
- ・課題レポートについては、教務情報ポータルシステムを通じて提出すること。

## 成績評価基準/Evaluation criteria

A+ :	90点以上100点	到達目標を十分に達成し、きわめて優れた学修成果を上げている。
A :	80点以上90点未満	到達目標を達成し、優れた学修成果を上げている。
B :	70点以上80点未満	到達目標と学修成果を概ね達成している。
C :	60点以上70点未満	合格と認められる最低限の到達目標に届いている。
D :	60点未満	到達目標に届いておらず、再履修が必要である。

## 成績の評価方法/Grading

16回目の期末試験は実施しない。評価は、①授業時の活動状況（30%）、②1回の課題レポート（30%）、③プレゼンテーション（40%）により行う。これらをディプロマポリシーに対応させた5観点で評価する。

## 教科書/Textbook(s)

教科書1

書名	茨城大学での学修の手引き - 「大学入門ゼミ」から始めよう -
著者名	
出版社	
出版年	
ISBN	
教材費	

## 参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	スタディスキルズ・トレーニング -大学で学ぶための25のスキル-
著者名	吉原恵子、他著
出版社	実教出版
出版年	
ISBN	
教材費	

参考書2

書名	大学 学びのことはじめ -初年次セミナーワークブック-
著者名	佐藤智明、他著
出版社	ナカニシヤ出版
出版年	
ISBN	
教材費	

参考書3

書名	知へのステップ -大学生からのスタディ・スキルズ-
著者名	上村和美、他著
出版社	くろしお出版
出版年	
ISBN	
教材費	

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	△
専門分野の学力	◎
課題解決能力	◎
コミュニケーション力	◎
実践的英語力	
社会人としての姿勢	○
地域活性化志向	○

アクティブ・ラーニング型科目

○
---

PBL科目

--

地域志向科目

--

## 使用言語

日本語のみ

## 実務経験のある教員による授業科目

--

## 実践的教育から構成される授業科目

--

## 社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KB1209	ナンバリング	KB-SMI-131	科目分野	演習
開講曜日・時限	水1	単位数	2	日英区分	日本語
対象学生	P(技術)	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2020年度前期 共通教育(基盤・教養・教育学部以外の教職)				
科目名	大学入門ゼミ				
担当教員(ローマ字表記)	工藤 雄司, 野崎 英明, 榎 守, 大西 有, 臼坂 高司				
シラバス用備考	【前期】				

## 授業題目/Title

技術教育入門

## 授業の概要/Course Overview

この授業では茨城大学での学修への導入を図る。すなわち、学生が、自由な環境の中で自律的・意欲的な学生生活を行うための知識・技能を知り、専門分野の学修における思考力・判断力・表現力の重要性を理解し、主体的な学修の習慣を身につけることをめざす。さらに、今後のキャリア・グローバル教育との関連性を意識づける。そのために、学生自らが調べる活動および学生間のグループディスカッション等を取り入れて授業を行う。

## キーワード/Keyword(s)

自律的・意欲的な学生生活、主体的な学修、知識・技能、思考力、判断力、表現力、キャリア、グローバル化、調査活動、グループディスカッション

## 到達目標/Learning Objectives

- ・自律的な学生生活を行う意欲と主体性を身につける。
- ・自らの専門分野(技術教育)に関する幅広い知識と俯瞰的な理解の基盤を身につける。
- ・協働的な課題解決のためのコミュニケーション力、思考力・判断力・表現力の基盤を身につける。

## 授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

- ・第1回 シラバスを用いたガイダンス, 教師の立場と職業的な責任, キャリアデザイン (大西)  
【授業内容・アクティブ・ラーニング】教育公務員に關係する法律により, 教師にはどのような法的な責任と役割があるかについて概説する。また, 学校を運営する上で關係する法律や学校・教師の社会的な使命と責任についても概説し, ディスカッション(ライティング・ディスカッション)を通して内容の理解を深める。
- ・第2回 技術科教育の内容の導入 (大西)  
【授業内容・アクティブ・ラーニング】技術科教育の位置付けや内容, 指導する意義等について概説する。内容の指導に当たり配慮する事項等についても概説し, ディスカッション(ライティング・ディスカッション)を通して内容の理解を深める。  
【授業外学修】
- ・第3回 大学における自由と責任, 高校から大学への「学びの転換」(臼坂)  
【授業内容・アクティブ・ラーニング】『茨城大学での学修の手引き-「大学入門ゼミ」から始めよう-』の第1章と第2章を使用する。具体的には, 「(1)大学における学習及び学生生活に関する情報発信と自己責任, 研究倫理の基本, 授業へ出席する際の注意」, 「(2)茨城大学における教育, アクティブ・ラーニング, 学修の実質化」についてディスカッション(ピア・インストラクション)を取り入れて授業を行う。授業の最後に, ミニツッパーパーを書き, 本時の学習内容を確認する。  
【授業外学修】



・第4回 材料と加工の技術（木材）の内容の導入（臼坂）

【授業内容・アクティブ・ラーニング】中学校技術科における材料と加工の技術（木材）について概説する。また、中学校で教えるために、大学でどのような知識と技能を身に着ける必要があるか解説する。授業の最後に、ミニツツペーパーを書き、本時の学習内容を確認する。

【授業外学修】

・第5回 図書館ガイダンス・図書館の有効活用法についてのディスカッション（臼坂）

【授業内容・アクティブ・ラーニング】図書館ガイダンスに参加し、大学での学修を進める上での図書館の有効な活用方法についてディスカッション（ピア・インストラクション）を行う。

【授業外学修】

・第6回 材料と加工の技術（金属・プラスチック）の内容の導入（野崎）

【授業内容・アクティブ・ラーニング】中学校技術科における材料と加工の技術（金属・プラスチック）の内容について簡単な実験を交えて概説する。授業の最後に、ミニツツペーパーを書き、本時の学習内容を確認する。

【授業外学修】本時の授業内容の復習と次時の予習を配付プリント（次回授業に持参・授業後提出）により行っておくこと。

・第7回 材料と加工の技術（丈夫な構造ほか）の内容の導入（野崎）

【授業内容・アクティブ・ラーニング】中学校技術科における材料と加工の技術（丈夫な構造）の内容について簡単な実験を交えて概説する。授業の最後に、ミニツツペーパーを書き、本時の学習内容を確認する。

【授業外学修】本時の授業内容の復習と次時の予習を配付プリント（次回授業に持参・授業後提出）により行っておくこと。

・第8回 「読む」・「書く」に関する技法と作法（野崎）

【授業内容・アクティブ・ラーニング】『茨城大学での学修の手引き－「大学入門ゼミ」から始めよう－』を使用して、剽窃・盗用・捏造・改ざんなど、レポート作成時の不正行為について解説する。その後、レポートを書くための情報の収集・整理の方法（「読む」に相当）、レポートの一般的な書式等を紹介する。授業の最後にミニツツペーパーを書き、本時の学習内容を確認する。授業の最後に、ミニツツペーパーを書き、本時の学習内容を確認する。

【授業外学修】本時の授業内容の復習を配付プリント（次回授業までにメール添付にて野崎まで提出）により行っておくこと。

・第9回 エネルギー変換の技術の内容の導入（榎）

【授業内容・アクティブ・ラーニング】中学校技術科におけるエネルギー変換の内容について考察する。授業の最後に、ミニツツペーパーを書き、本時の学習内容を確認する。

【授業外学修】高等学校で履修したエネルギーと仕事の内容を復習しておくこと。

・第10回 情報の技術の内容の導入（工藤）

【授業内容・アクティブ・ラーニング】中学校技術科における情報の技術の内容について簡単な演習を交えて概説する。授業の最後に、ミニツツペーパーを書き、本時の学習内容を確認する。

【授業外学修】

情報の技術の内容がどのように身の回りの生活に利用されているか調べ、次回のプレゼンで使用する。また、高等学校で履修した教科「情報」において学習したプレゼンテーションについて復習しておくこと。

・第11回 「聞く」・「話す」に関する技法と作法（PPを使ったプレゼン1）（工藤）

【授業内容・アクティブ・ラーニング】『茨城大学での学修の手引き－「大学入門ゼミ」から始めよう－』の第3章を使用する。世界の技術教育などを題材にしてプレゼンテーションを行う。このプレゼンを評価する活動（ピア・インストラクション）を通して効果的なプレゼンについての授業を行う。授業の最後に、ミニツツペーパーを書き、本時の学習内容を確認する。

【授業外学修】効果的なプレゼンテーションについての要点をまとめる。また、次回発表するプレゼン資料を完成させるために使用する素材を収集しておくこと。

・第12回 「聞く」・「話す」に関する技法と作法（PPを使ったプレゼン2）（工藤）

【授業内容・アクティブ・ラーニング】『自分の理想の技術教育』という題のプレゼンテーションを、効果的なプレゼンの技法と作法に留意して作成する。グループ別プレゼンを行い、相互評価する活動を通して効果的なディスカッション（パネル・ディスカッション）についての授業を行う。授業の最後に、ミニツツペーパーを書き、本時の学習内容を確認する。

【授業外学修】ディスカッションを通して見えてきた自分のプレゼンの善し悪しについて、より効果的なプレゼンになるようプレゼン資料を修正し、完成した作品を次回授業までにメール添付にて工藤まで提出する。

・第13回「聞く」・「話す」に関する技法と作法（口述によるプレゼン1）（榊）

【授業内容・アクティブ・ラーニング】授業では技術を題材に各自プレゼンテーションを行う。プレゼンについて各自考察する。授業の最後に、ミニツツペーパーを書き、内容を確認する。

【授業外学修】発表内容を考え、内容を箇条書きにまとめておくこと。

・第14回「聞く」・「話す」に関する技法と作法（口述によるプレゼン2）（榊）

【授業内容・アクティブ・ラーニング】技術を題材に各自プレゼンテーションを行う。プレゼンについて各自考察する。授業の最後に、ミニツツペーパーを書き、内容を確認する。

【授業外学修】発表内容を考え、内容を箇条書きにまとめておくこと。

・第15回 生物育成の技術の内容の導入・まとめ（大西）

【授業内容・アクティブ・ラーニング】

①技術教育における「生物育成の技術」の内容を指導する上での課題等について概説し、改善の方向性や配慮事項等についてディスカッション（ライティング・ディスカッション）を通して理解を深める。

②「大学入門ゼミ」の内容をふり返り、ディスカッション（ライティング・ディスカッション）を通して今後の見通しをもつ。

## 履修上の注意/Notes

遅刻は3回で欠席1回とする。遅刻の扱いをするのは授業開始後20分までとし、それ以降は欠席扱いとする。各教員のオフィスアワーは次の通りである。

工藤：木曜2講時，野崎：月曜4講時，榊：月曜1講時，大西：月曜2講時，臼坂：木曜5講時

## 情報端末の活用

・第10～12回目でパワーポイントを使用したプレゼンテーションなどを行うので、PCを持参すること。

## 成績評価基準/Evaluation criteria

大学入門ゼミ・ルーブリックを成績評価基準とする。

## 成績の評価方法/Grading

・16回目の期末試験は実施しない。

・評価は①授業時のディスカッションへの取り組みを記載した「ライティング・ディスカッション」，「ミニツツペーパー」15回（50%），②課題レポート3回（30%），③プレゼンテーション2回（20%）により行う。ディプロマポリシーに対応する到達目標の3項目をルーブリック（注※）で評価する。

※ルーブリックは授業内で配付して、学生と共通理解を図る。

## 教科書/Textbook(s)

備考	「茨城大学での学修の手引き - 「大学入門ゼミ」から始めよう-」（入学時配付済）
----	--

## 参考書/Reference Book(s)

## 関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	○
専門分野の学力	
課題解決能力	○

コミュニケーション力	○
実践的英語力	
社会人としての姿勢	○
地域活性化志向	

### アクティブ・ラーニング型科目

### PBL科目

### 地域志向科目

### 使用言語

### 実務経験のある教員による授業科目

### 実践的教育から構成される授業科目

### 社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KB1210	ナンバリング	KB-SMI-131	科目分野	演習
開講曜日・時限	火3	単位数	2	日英区分	日本語
対象学生	P(家庭)	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2020年度前期 共通教育(基盤・教養・教育学部以外の教職)				
科目名	大学入門ゼミ				
担当教員(ローマ字表記)	数井 みゆき, 木村 美智子, 野中 美津枝, 佐藤 裕紀子, 西川 陽子, 石島 恵美子				
シラバス用備考	【前期】				

## 授業題目/Title

生活科学の視点

## 授業の概要/Course Overview

この授業では茨城大学での学修への導入を図る。すなわち、学生が、自由な環境の中で自律的・意欲的な学生生活を行うための知識・技能を知り、専門分野の学修における思考力・判断力・表現力の重要性を理解し、主体的な学修の習慣を身につけることをめざす。さらに、今後のキャリア・グローバル教育との関連性を意識づける。そのために、学生自らが調べる活動および学生間のグループディスカッション等を取り入れて授業を行う。

## キーワード/Keyword(s)

自律的・意欲的な学生生活、主体的な学修、知識・技能、思考力、判断力、表現力、生活科学、コミュニケーション、キャリア、グローバル化

## 到達目標/Learning Objectives

- ・自律的な学生生活を行う意欲と主体性を身につける。
- ・自らの専門分野(学部・学科等)に関する幅広い知識と俯瞰的な理解の基盤を身につける。
- ・協働的な課題解決のためのコミュニケーション力、思考力・判断力・表現力の基盤を身につける。

## 授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

第1回:【授業内容】シラバスを使用したガイダンス

【授業外学修】自分なりの大学生活について考えて、自身のアピールポイントなどを書き出しておく。

第2回:【授業内容】高校から大学への「学びの転換」:グローバル化する社会において仕事と人生のキャリアを見据え、大学での学修をどのように進めるか、4年間の学修計画を考える。

【授業外学修】1回目の授業で扱った「茨城大学での学習の手引き」の個所を振り返るとともに、2回目用の予習を行う。

第3回:【授業内容】「聞く」、「話す」に関する技法と作法:自身を取り巻く家庭や社会の問題について科学的視点に立ち分析するとはどういうことかをテーマにグループディスカッションを行い、人の話を聞きそれを受けて自分の考えを述べるなかで、他者の考えを取り入れ自分の考えを深める方法を学ぶ。

【授業外学修】2回目の授業で扱った「茨城大学での学習の手引き」の個所を振り返るとともに、3回目用の予習を行う。

第4回:【授業内容】「読む」、「書く」に関する技法と作法:第3回目に学んだ内容について、テーマを設定し、科学的視点に立ちながら、レポートを構想する。「学習の手引き」を使用して、剽窃・盗用・捏造・改ざんなど、レポート作成時の不正行為について理解する。

【授業外学修】第5回目に提出するレポートを作成する。

第5回:【授業内容】図書館の活用:課題レポートや卒業研究などで必要とされる文献検索の方法について、大学図書館を活用して学ぶ。

【授業外学修】説明を受けたことについて、自分のパソコン等から図書館へアクセスし、実際にどのように使えるかを確認する。

第6回：【授業内容】家庭選修での学修／家庭科教育学の概要(1)

【授業外学修】本時の授業内容の予習・復習を配布物などを使って行う。

第7回：【授業内容】家庭科教育学の概要(2)

【授業外学修】本時の授業内容の予習・復習を配布物などを使って行う。

第8回：【授業内容】家庭経営学の概要

【授業外学修】本時の授業内容の予習・復習を配布物などを使って行う。

第9回：【授業内容】食物学の概要

【授業外学修】本時の授業内容の予習・復習を配布物などを使って行う。

第10回：【授業内容】被服学の概要

【授業外学修】本時の授業内容の予習・復習を配布物などを使って行う。

第11回：【授業内容】保育学の概要

【授業外学修】本時の授業内容の予習・復習を配布物などを使って行う。

第12回：【授業内容】プレゼンテーションの方法(1):教科書を用いてプレゼンテーションの基礎を学び、グループに分かれ、家庭科における各分野（家庭経営、食物、被服、住居、保育）の教育の必要性について議論し、プレゼンテーションの企画案を立てる。

【授業外学修】各分野での学びを復習しておき、本時の予習を事前の説明等に合わせて行う。

第13回：【授業内容】プレゼンテーションの方法(2):前回の企画案をもとに、各グループごとにスライドやレジュメを作成してプレゼンテーションの準備をする。

【授業外学修】プレゼンテーションの内容を復習しておき、本時の予習を事前の説明等に合わせて行う。

第14回：【授業内容】プレゼンテーションの方法(3):各グループごとにスライドやレジュメを用いて実際にプレゼンテーションを行い、効果的なプレゼンテーション手法についてディスカッションをし、理解を深める。

【授業外学修】プレゼンテーションの内容ややり方を復習しておき、本時の予習を事前の説明等に合わせて行う。

第15回：【授業内容】自分の学びについての発表、まとめ

【授業外学修】この授業全体を通じた学びについて、数分のスピーチ用の原稿を作成しておく。

【アクティブ・ラーニング】

第1～4、12～14回目にはそれぞれのトピックに関するディスカッションが入っている。

第6～11回目の各専門分野に関しては、それぞれレスポンスペーパーに記入し、学びを振り返り考察を行う。

第12～14回では、プレゼンテーションが必須になっている。

第15回は、2、3分のスピーチ形式のプレゼンテーションを行う。

## 履修上の注意/Notes

- ・グループディスカッション、グループワークなどコミュニケーションを主体とするアクティブ・ラーニングに積極的に取り組むこと。
- ・遅刻については、やむを得ない場合に授業開始後30分まで認める。
- ・オフィスアワー：月曜日 昼休み

## 情報端末の活用

- ・講義資料は教務情報ポータルシステムでも事前配布するので、毎回の授業時にはPCを持参すること。
- ・課題の提出等は、教務情報ポータルシステムを通じて提出すること。
- ・15回目（予定）では、授業評価を行うため、必ず、PC,スマートフォンなどを持参すること。

## 成績評価基準/Evaluation criteria

A+ : 90点以上100点	到達目標を十分に達成し、きわめて優れた学修成果を上げている。
A : 80点以上90点未満	到達目標を達成し、優れた学修成果を上げている。
B : 70点以上80点未満	到達目標と学修成果を概ね達成している。
C : 60点以上70点未満	合格と認められる最低限の到達目標に届いている。
D : 60点未満	到達目標に届いておらず、再履修が必要である。

(成績の評価方法参照のこと)

## 成績の評価方法/Grading

16回目の期末試験は実施しない。

①ディスカッションやプレゼンテーションなど授業時の学修への取り組み姿勢 (30点)

②授業で課した課題レポート (40点)

③プレゼンテーション (30点)

とし、ルーブリックでの評価方法をもとに最終的な成績とする。

## 教科書/Textbook(s)

教科書1

書名	「茨城大学での学修の手引き - 「大学入門ゼミ」から始めよう -」
著者名	
出版社	
出版年	
ISBN	
教材費	

## 参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	「スタディスキルズ・トレーニング - 大学で学ぶための25のスキル -」
著者名	吉原恵子
出版社	実教出版
出版年	
ISBN	
教材費	

参考書2

書名	「大学 学びのことはじめ - 初年次セミナーワークブック -」
著者名	佐藤智明、他著
出版社	ナカニシヤ出版
出版年	
ISBN	
教材費	

書名	知へのステップ - 大学生からのスタディ・スキルズ -
著者名	上村和美、他著
出版社	くろしお出版
出版年	
ISBN	
教材費	

### 関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	<input type="radio"/>
専門分野の学力	
課題解決能力	<input type="radio"/>
コミュニケーション力	<input type="radio"/>
実践的英語力	
社会人としての姿勢	<input type="radio"/>
地域活性化志向	

### アクティブ・ラーニング型科目

### PBL科目

### 地域志向科目

### 使用言語

### 実務経験のある教員による授業科目

### 実践的教育から構成される授業科目

### 社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KB1211	ナンバリング	KB-SMI-131	科目分野	演習
開講曜日・時限	木2	単位数	2	日英区分	日本語
対象学生	P(教育実践)	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2020年度前期 共通教育(基盤・教養・教育学部以外の教職)				
科目名	大学入門ゼミ				
担当教員(ローマ字表記)	宮本 浩紀				
シラバス用備考	【前期】				

## 授業題目/Title

大学での学びについて

## 授業の概要/Course Overview

本授業では、茨城大学での学習と研究及びその後の学びの基盤となるスキルの獲得を目指す。具体的には、「文献の調べ方」「レポート・論文の書き方」「発表の仕方」等について、学校教育を素材としながら実践的に学んでいく。学びの成果を確認すべく定期的に発表と相互評価を取り入れた活動を実施するなど、可能な限り学生主体の授業づくりを心がける。その際、小・中学校で実践されている具体的なワークを取り入れることにより、教員として行う授業づくりに資するものとする。

## キーワード/Keyword(s)

主体的な学習, 知識・技能, 思考力・判断力・表現力, グループディスカッション, プレゼンテーション

## 到達目標/Learning Objectives

- ・自主的・自律的な学生生活を行う意欲を身につける。
- ・教育学の諸分野に関する知識と実践の広がりを見ることが出来る。
- ・各人の最も興味のあるテーマについて、他者が理解できる形で説明できる。
- ・協働的な課題解決を行うために、思考力・判断力・表現力の基礎を身につける。

## 授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

- 第1回：シラバスを用いたガイダンス(自己紹介を含む)
- 第2回：教員の仕事・キャリア
- 第3回：情報の収集について①(PCを通じた情報収集)
- 第4回：情報の収集について②(図書館の活用 ※図書館ガイダンス45分・残りは講義)
- 第5回：情報のまとめ方について(PCを通じたパワポ資料作成)
- 第6回：レポート・論文の書き方①(レポート・論文とは何か)
- 第7回：レポート・論文の書き方②(レポート・論文執筆上の決まり)
- 第8回：レポート・論文の書き方③(文章の要約のポイント)
- 第9回：レポート・論文の書き方④(文章の要約の実践)
- 第10回：プレゼンテーションのポイント
- 第11回：プレゼンテーションの準備(プレゼンテーションテーマの探求)
- 第12回：プレゼンテーションの準備(プレゼンテーション資料の作成)
- 第13回：プレゼンテーションの実演と相互講評(グループ1～3)
- 第14回：プレゼンテーションの実演と相互講評(グループ4～6)
- 第15回：プレゼンテーションの実演と相互講評(グループ7～9)

【授業外学修】



- (1) 事前に提示する講義テーマあるいは講義資料についてあらかじめ調べておくこと。
- (2) 各回の内容についてテキスト等を読むこと（該当頁は授業の進度に応じて事前に指示する）
- (3) PowerPointの操作について自信のない学生は第10回までに事前学習しておくことが望ましい。

#### 【アクティブ・ラーニング】

- (1) 毎回、それまでの学修内容に関し、ミニッツ・ペーパーや提出物による確認を行う。
- (2) 第5回～第9回・第10回～第15回の講義では、学生作成資料やプレゼンテーションの内容に関するグループワークを行う。

## 履修上の注意/Notes

事前・事後に連絡のない遅刻や欠席は認めない。グループワークやプレゼンテーション（事前準備及び相互評価含む）には積極的に取り組むこと。学習上・生活上相談がある場合は所定のオフィスアワーにA棟410研究室に訪問すること。

## 情報端末の活用

本授業では学生が保有するPCを活用するので、必ず毎回持参すること。また、作成した資料を保存するUSBを準備しておくこと（データ容量等について不明点がある場合には、初回の授業時に確認すること）。

## 成績評価基準/Evaluation criteria

A + : 「学修の手引き」「レポート・論文の書き方」「プレゼンテーションのポイント」その他知識及び技能について基本的な知識と考え方を十分に修得するとともに、さらに自ら積極的にその能力の向上に具体的に取り組んでいる。加えて、それらを自分のテーマに当てはめて効果的に活用することができている。

A : 「学修の手引き」「レポート・論文の書き方」「プレゼンテーションのポイント」その他知識及び技能について基本的な知識と考え方を十分に修得するとともに、それらを自分のテーマに当てはめて効果的に活用することができている。

B : 「学修の手引き」「レポート・論文の書き方」「プレゼンテーションのポイント」その他知識及び技能について基本的な知識と考え方の重要性を理解し、自らの作業・実践に取り入れようとしている。

C : 「学修の手引き」「レポート・論文の書き方」「プレゼンテーションのポイント」その他知識及び技能について基本的な知識と考え方の重要性を理解している。

D : 「学修の手引き」「レポート・論文の書き方」「プレゼンテーションのポイント」その他知識及び技能について基本的な知識と考え方が修得できていない。

## 成績の評価方法/Grading

期末試験は行わない。各回の作成・提出物：50%、プレゼンテーション（相互評価への参加含む）：50%で評価する。なお、プレゼンテーションは、実際のパフォーマンスに加え、資料作成の準備状況・グループでの役割（プレゼンテーション資料の準備/発表等）、聴講学生が行った肯定的評価を加味した上で判断する。

## 教科書/Textbook(s)

教科書1

書名	茨城大学での学修の手引きー「大学入門ゼミ」から始めようー
著者名	
出版社	
出版年	
ISBN	
教材費	

## 参考書/Reference Book(s)

### 参考書1

書名	学術論文の技法
著者名	斉藤孝
出版社	日本エディタースクール出版部
出版年	2000
ISBN	
教材費	1500

### 参考書2

書名	教育研究ハンドブック
著者名	立田慶裕
出版社	世界思想社
出版年	2008
ISBN	
教材費	2090

### 参考書3

書名	論文の書き方
著者名	清水幾太郎
出版社	岩波新書
出版年	2012
ISBN	
教材費	792

## 関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	△
専門分野の学力	○
課題解決能力	◎
コミュニケーション力	◎
実践的英語力	
社会人としての姿勢	○
地域活性化志向	

## アクティブ・ラーニング型科目

○
---

## PBL科目

--

**地域志向科目**

--

**使用言語**

日本語
-----

**実務経験のある教員による授業科目**

--

**実践的教育から構成される授業科目**

--

**社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）**

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KB1212	ナンバリング	KB-SMI-131	科目分野	演習
開講曜日・時限	水1	単位数	2	日英区分	日本語
対象学生	P(特別支援)	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2020年度前期 共通教育(基盤・教養・教育学部以外の教職)				
科目名	大学入門ゼミ				
担当教員(ローマ字表記)	細川 美由紀				
シラバス用備考	【前期】				

## 授業題目/Title

特別支援教育入門

## 授業の概要/Course Overview

この授業では茨城大学での学修への導入を図る。すなわち、学生が、自由な環境の中で自律的・意欲的な学生生活を行うための知識・技能を知り、専門分野の学修における思考力・判断力・表現力の重要性を理解し、主体的な学修の習慣を身につけることをめざす。さらに、今後のキャリア・グローバル教育との関連性を意識づける。そのために、学生自らが調べる活動および学生間のグループディスカッション等を取り入れて授業を行う。

## キーワード/Keyword(s)

自律的・意欲的な学生生活、主体的な学修、知識・技能、思考力、判断力、表現力、キャリア、調査活動、グループディスカッション、特別支援教育

## 到達目標/Learning Objectives

- ・自律的な学生生活を行う意欲と主体性を身につける。
- ・自らの専門分野(学部・学科等)に関する幅広い知識と俯瞰的な理解の基盤を身につける。
- ・協働的な課題解決のためのコミュニケーション力、思考力・判断力・表現力の基盤を身につける。

## 授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

- 第1回：シラバスを用いたガイダンスと導入、大学という学修・生活環境における自由と責任《自己紹介と今後の学修への取り組み》【アクティブラーニング手法：口頭発表、グループディスカッション】
- 第2回：高校から大学への「学びの転換」《4年間の履修計画》【アクティブラーニング手法：グループディスカッション】
- 第3回：「聞く」、「話す」に関する技法と作法《特別支援学校の教師を目指して》【アクティブラーニング手法：口頭発表、グループディスカッション、リフレクティブ・ジャーナル】
- 第4回：「読む」、「書く」に関する技法と作法《特別支援教育に関する興味・関心》【アクティブラーニング手法：グループディスカッション、リフレクティブ・ジャーナル】
- 第5回：図書館の活用《知識を深める方法》【アクティブラーニング手法：調査活動】
- 第6回：特別支援教育に関わるグループ調査①《グループ編成と課題設定》【アクティブラーニング手法：グループディスカッション、PBL、リフレクティブ・ジャーナル】
- 第7回：特別支援教育に関わるグループ調査②《課題解決の方法》【アクティブラーニング手法：グループディスカッション、PBL、リフレクティブ・ジャーナル】
- 第8回：特別支援教育に関わるグループ調査③《資料収集と討議》【アクティブラーニング手法：グループディスカッション、PBL、調査資料収集、リフレクティブ・ジャーナル】
- 第9回：特別支援教育に関わるグループ調査④《収集された資料の整理》【アクティブラーニング手法：グループディスカッション、PBL、資料まとめ、リフレクティブ・ジャーナル】
- 第10回：特別支援教育に関わるグループ調査⑤《まとめ》【アクティブラーニング手法：グループディスカッション、PBL、資料まとめ、リ

フレクティブ・ジャーナル】

第11回：調べたことをまとめる方法【アクティブラーニング手法：グループディスカッション, PBL, 資料まとめ, リフレクティブ・ジャーナル】

第12回：グループによる資料作成【アクティブラーニング手法：グループディスカッション, PBL, 資料作成, リフレクティブ・ジャーナル】

第13回：グループごとの発表と討議①【アクティブラーニング手法：プレゼンテーション, グループディスカッション, リフレクティブ・ジャーナル】

第14回：グループごとの発表と討議②【アクティブラーニング手法：プレゼンテーション, グループディスカッション, リフレクティブ・ジャーナル】

第15回：まとめ【アクティブラーニング手法：グループディスカッション, リフレクティブ・ジャーナル】

【授業外学修】

(1)授業中に行ったアクティブ・ラーニングの内容を授業後に学生同士で情報を共有しながらディカッションすることでさらに理解を深める。

(2)授業で扱ったトピックスに関するニュースや記事とそれに対する自分の意見について文書としてまとめておく。

## 履修上の注意/Notes

グループディスカッション、グループワークなどコミュニケーションを主体とするアクティブ・ラーニングに積極的に取り組むこと。

授業時間外の主体的な学修に取り組むこと。

大幅な遅刻は他の学生の迷惑になるので、避けること。

## 情報端末の活用

第8回～15回ではグループワークでPCを使用するため、グループで最低1台、持参すること。

## 成績評価基準/Evaluation criteria

A+：大学での主体的な学び、ならびに専門分野における学びの概要およびその手法について十分に理解し、グループワークやプレゼンテーションにその成果が十分に反映されている。

A：大学での主体的な学び、ならびに専門分野における学びの概要およびその手法について理解し、グループワークやプレゼンテーションにその成果が反映されている。

B：大学での主体的な学び、ならびに専門分野における学びの概要およびその手法について概ね理解し、グループワークやプレゼンテーションにその成果が概ね反映されている。

C：大学での主体的な学び、ならびに専門分野における学びの概要およびその手法について最低限理解しており、グループワークやプレゼンテーションにその内容が反映されている。

D：大学での主体的な学び、ならびに専門分野における学びの概要およびその手法について理解ができておらず、グループワークやプレゼンテーションも不十分である。

## 成績の評価方法/Grading

16回目の期末試験は実施しない。

評価は①授業後の振り返りを記載した学修の記録、グループ活動での参加状況とプレゼンテーション（50%）、③課題レポート（50%）により行う。

## 教科書/Textbook(s)

教科書1

書名	茨城大学での学修の手引き - 「大学入門ゼミ」から始めよう -
著者名	
出版社	

出版年	
ISBN	
教材費	

## 参考書/Reference Book(s)

### 参考書1

書名	大学生のためのレポート・論文術
著者名	小笠原喜康 著
出版社	講談社
出版年	2018
ISBN	4065135028
教材費	800

### 参考書2

書名	大学学びのことはじめ：初年次セミナーワークブック
著者名	佐藤智明, 矢島彰, 山本明志 編
出版社	ナカニシヤ出版
出版年	2014
ISBN	9784779508387
教材費	1900

## 関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	<input type="radio"/>
専門分野の学力	<input checked="" type="radio"/>
課題解決能力	<input checked="" type="radio"/>
コミュニケーション力	<input checked="" type="radio"/>
実践的英語力	
社会人としての姿勢	<input type="radio"/>
地域活性化志向	

## アクティブ・ラーニング型科目

## PBL科目

## 地域志向科目

## 使用言語

日本語のみ

## 実務経験のある教員による授業科目

--

## 実践的教育から構成される授業科目

--

## 社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KB1213	ナンバリング	KB-SMI-131	科目分野	演習
開講曜日・時限	木2	単位数	2	日英区分	日本語
対象学生	P(養護教諭)	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2020年度前期 共通教育(基盤・教養・教育学部以外の教職)				
科目名	大学入門ゼミ				
担当教員(ローマ字表記)	竹下 智美, 廣原 紀恵, 瀧澤 利行, 古池 雄治, 石原 研治, 青柳 直子				
シラバス用備考	【前期】				

## 授業題目/Title

養護教諭論

## 授業の概要/Course Overview

この授業では茨城大学での学修への導入を図る。学生が、自律的・意欲的な学生生活を行うための知識・技能を知り、専門分野の学修における思考力・判断力・表現力の重要性を理解し、主体的な学修の習慣を身につけることをめざす。さらに、今後のキャリア・グローバル教育との関連性を意識づけるために、学生間のディスカッションや調べ学修を通じて複雑な養護教諭の職務をひもといていき、養護教諭と自己イメージとの接近を図る。

## キーワード/Keyword(s)

養護、子ども、保健室、ケース・メソッド、健康、発達

## 到達目標/Learning Objectives

- ・自律的な学生生活を行う意欲と主体性を身につける。
- ・自らの専門分野に関する幅広い知識と俯瞰的な理解の基盤を身につける。
- ・協働的な課題解決のためのコミュニケーション力、思考力・判断力・表現力の基盤を身につける。

## 授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

第1回：シラバスを用いたガイダンスと導入、大学という学修・生活環境における自由と責任  
(アクティブ・ラーニング手法) コミュニケーション・マナーについて、対教員、対先輩、対アルバイト先上司の対応課題(宿題を忘れた等)について、グループでディカッション後、発表する。入学動機・大学生活の希望と不安等をワークシートに記入後、5分間の制限を与えてペアで語り合う。相手を変えて同様に語り合う。

第2回：自己紹介

(アクティブ・ラーニング手法) 一人2分で口頭で自己紹介を行う。

第3回：高校から大学への「学びの転換」

(アクティブ・ラーニング手法) 6人グループになり、①4年間の履修計画を模造紙に作成する。パネルに貼り、2人を除いて、他のパネルを見にいき、意見交換して、グループに戻り、シェアする。②「学外での学修(留学、インターンシップ、ボランティア等)をどう活用するか」をグループごとに議論する

第4回：「聞く」、「話す」に関する技法と作法

(アクティブ・ラーニング手法) (アクティブ・ラーニング手法) 伝える力に関する文献の購読し、「聞く」「話す」ことについて理解を深め、他人とのコミュニケーションに必要な"基本的"心構についてディスカッションする。

第5回：「読む」、「書く」に関する技法と作法



(アクティブ・ラーニング手法) 「学修の手引き」を使用して、剽窃・盗用・捏造・改ざんなど、レポート作成時の不正行為について解説する。「演習」課題の論説を読ませ、要約させ、3人グループになり、意見交換する。さらに、論説から学んだことをミニレポートとして記述させる。数人に発表させ、助言する。

#### 第6回：図書館の活用

(講義・アクティブ・ラーニング手法) 図書館ガイダンスの説明(45分)を聞き、その後残り45分は自分の誕生日の出来事を調べ学習する。

#### 第7～8回：養護教諭の資質(企画・実行・調整能力)

(アクティブ・ラーニング手法) 滷沼合宿に向けて全員で協力し、レクレーションその他の企画をたて、実行するために必要な役割を分担し、合宿に向けての準備を行っていく。

#### 第9回：養護教諭の役割を考える

(アクティブ・ラーニング手法) 「ブレインストーミング」によりグループディスカッションをさせ、グループごとに発表させる。「リアクションペーパー」により振り返りをさせる。

#### 第10回：保健室の機能を考える

(アクティブ・ラーニング手法) 「ブレインライティング」によりグループディスカッションをさせ、グループごとに発表させる。「リアクションペーパー」により振り返りをさせる。

#### 第11回：保健室のエピソードを記述する

(アクティブ・ラーニング手法) 保健室の良い思い出と悪い思い出のエピソードを記述する。

#### 第12回：子どもの健康課題①

(アクティブ・ラーニング手法) 子どもの健康問題に関するVTRを視聴し、グループディスカッションする。(3人のグループを4グループ)

#### 第13回：子どもの健康課題②

(アクティブ・ラーニング手法) 子どもの健康課題を一つ選択し、時代的変遷と背景、支援について考察したことをグループごとにディスカッションしまとめる。(3人のグループを4グループ)

#### 第14回：子どもの健康課題③

(アクティブ・ラーニング手法) 「プレゼンテーション」「パネルディスカッション」第13回目のまとめについてグループごとに発表ディスカッションする。(3人のグループを4グループ)

#### 第15回：学習のまとめ

(アクティブ・ラーニング手法) 「グループディスカッション」本授業を通して学んだことと今後の課題をワークシートに記述し、グループになりディスカッションする。グループごとに発表し、意見交流を図る。

## 履修上の注意/Notes

本授業は、毎回クラスの仲間とのディスカッションを行う。自分の思い、考えを自分の言葉で他者に伝えることを意識すること。その後、ディスカッションをとおしてさらに深まった考えを授業終了前に記述する時間を設ける。本授業の予習として、新聞、ニュースに目を通し、現代の子どもの健康問題や取り巻く課題に関心を持ち、自分の考えを整理すること。

オフィスアワー：木曜3限 事前にアポを取ってください。

## 情報端末の活用

## 成績評価基準/Evaluation criteria

A+：到達目標の3点について極めて高いレベルで達成されている。

- A:到達目標の3点について高いレベル以上で達成されている。  
B:到達目標の3点についておおむね以上のレベルで達成されている。  
C:到達目標の3点について最低限のレベル以上において達成されている。  
D:到達目標の3点のうち1点以上について全く達成されていない。

## 成績の評価方法/Grading

16回目の期末試験は実施しない。評価は、①「ワークシート」「リアクションペーパー」(20%) ②ディスカッションの参加状況(40%) ③プレゼンテーション等課題(30%) により行う。④酒沼合宿における実行力(10%)

## 教科書/Textbook(s)

教科書1

書名	「茨城大学での学修の手引き」
著者名	
出版社	
出版年	
ISBN	
教材費	

## 参考書/Reference Book(s)

### 関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	<input type="radio"/>
専門分野の学力	
課題解決能力	<input type="radio"/>
コミュニケーション力	<input type="radio"/>
実践的英語力	
社会人としての姿勢	<input type="radio"/>
地域活性化志向	

### アクティブ・ラーニング型科目

### PBL科目

### 地域志向科目

## 使用言語

日本語

## 実務経験のある教員による授業科目

--

## 実践的教育から構成される授業科目

--

## 社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--